

# 大震災・復興ニュース（第33報）

平成23年12月1日  
仙台地方振興事務所水産漁港部

## 1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

### 宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり放射性物質の測定結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年11月24日～11月29日
- 2 測定分析機関 （財）日本分析センター，いであ（株）
- 3 測定結果 放射性ヨウ素はすべて不検出であり，放射性セシウムも国が定めた暫定規制値を下回り，安全性に問題がないことが確認された。

水産物（漁獲日 平成23年11月16日～11月28日）

（単位：ベクレル/kg）

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
ヒラメ	宮城県沖	2.4	マカジキ	太平洋沖合	2.4
ダルマガレイ	宮城県沖	4.5	アブラツノザメ	北海道・青森県沖太平洋	3.3
アカガイ	閑上沖	2	カツオ	日本太平洋沖合北部	13.9
メバチマグロ	太平洋沖合	6.2	ギンザケ(養殖)	大和町	不検出
ピンナガ(ピンチヨウマグロ)	太平洋沖合	2.07			

放射性物質の値は漁獲日における値を示す。

食品衛生法の規定に基づく食品中の暫定規制値

放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg 放射性セシウム 500ベクレル/kg

### <水産漁港部からのお知らせ>

#### サケ採捕・採卵状況

管内のシロサケ遡上状況は，どの孵化場も例年より多い状況で，管内全体の採捕尾数は25,032尾（対前年比135%，今年採卵していない松島を除く）となっている。

採卵は鳴瀬吉田川さけ増殖組合では11月14日に終了，広瀬名取川漁協では11月8日に終了，県漁協亘理支所では11月22日に終了，阿武隈川漁協では11月23日に終了，白石川漁協では11月2日に終了した。

11月21日現在の管内の採卵数は，広瀬名取川漁協，鳴瀬吉田川鮭増殖組合，白石川漁協の3団体で計画を上回る結果となっており，管内全体では8374.8千粒（対前年比112%，今年採卵していない松島を除く）となっている。

## 共同利用施設の災害査定

- ・ 12月5日から共同利用施設の災害査定が行われる。
- ・ 査定日程及び対象は以下のとおり。
  - 12月 5日：宮戸西部支所のノリ共同加工施設の修繕
  - 12月12日：浦戸支所の桂島ノリ陸上採苗施設及び共同カキ処理場の修繕・野々島のカキ浄化施設の修繕
  - 12月14日：松島支所磯島の共同カキ処理場の修繕



津波被害を受けた野々島のカキ浄化施設

## 2 管内の復興に向けた動き

### <トピックス>

#### おでんそばを販売

首都圏の駅構内のそば屋などで、塩釜のマルブン食品の揚げかまぼこを使った「おでんそば」が販売されている。

これはマルブン食品がJR東日本の関連会社日本レストランエンタープライズ（NRE）と提携して始めたもので、立川駅で塩釜のさつま揚げを使って販売されていて震災後販売中止していたものをマルブン食品の工場再開に伴いNREが125の直営店に拡大したものの。

11月12日に販売を開始して以来毎日約千食が売れており、仙台駅地下街の店舗でも販売が予定されている。



おでんそば用さつま揚げ

#### 水産庁第3次補正予算説明会の開催

11月29日に県漁協塩釜総合支所会議室において、全県の市町村及び県漁協関係者を対象にした水産庁第3次補正予算説明会が開催された。

会議では、漁船漁業の収益性確保や養殖生産の共同化による経営再建を支援する「がんばる漁業・養殖復興支援事業」、本格的な復興に向けた共同利用施設補助である「共同利用施設整備復旧整備事業」、被災した若青年漁業者の技術取得や漁家子弟の就業支援である「漁業復興担い手確保支援事業」等の説明があったが、参加者からは放射能の風評被害への懸念や地盤嵩上げへの質問などがあった。

また、12月1日には同じ県漁協塩釜総合支所会議室において、水産加工関係者を対象にした同予算説明会が開催された。

こちらの会議では、「東日本大震災復興交付金」や「漁港における地盤沈下対策」等の事業についての説明があり、参加者からは第1次補正予算の執行に当たり、工事施工業者の関係で年度内工事が難しいといった意見や、地盤沈下対策について、漁港区域以外の対応に係る国の一本化した窓口設置の要望などがあった。